

授 業 科 目 名	国語科教育法Ⅰ	教 員 名	中村佳文	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	
					保育士	
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		こども音楽療育士	
科 目 番 号	SID301	配当年次	3 年前期	卒 業 要 件	小幼コース	
単 位 数	2 単位				幼保コース	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	国語科教育の目標及および各学年の目標・内容・系統性・評価等について理解し自らの実践に活用できるようにする。また各領域・事項 における実践事例を検討し、その考え方・授業展開について学習し、実習等に向けて国語の授業実践ができる基礎基本の資質・能力を身につける。 (1)国語科の目標及び内容 学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解し、実践に活かせる能力。 (2)国語科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導方法を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と実践力を身に付ける。					
到 達 目 標	(1)国語科の目標及び内容 1)学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3)国語科の学習評価の考え方を理解している。 4)国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 (2)国語科の指導方法と授業設計 1)学習者の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2)国語科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。					
授 業 の 概 要	国語科における意義・構造を踏まえ学習者に育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について国語教育研究の視点から理解を深める。また指導領域ごとの学習指導方法を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付ける。 最初に「国語教育」と「国語科教育」の違いを認識し、その意義について理解を深める。その後、「目標」「内容」「方法」「評価」などの観点から「国語科教育」の基本となる構造を学んでいく。さらに自ら授業計画が立てられるよう、「学習者の実態把握」「単元計画」「学習指導案作成」「教材研究」「言語活動」などの観点から授業実践への足掛かりを掴む。以上のような点を構造的に整理し、後期の「国語科教育法Ⅱ」に結びつけ、さらには教育実習での授業実践へ向けて基礎的な資質・能力を養っていく。講義は活動型学習とし、講義外学修においてテキストは事前に内容を理解しておくこと。その知識に基づき、講義では担当者や受講者同士の対話活動を重視し、主体的で深い思考を目指し自らが判断し表現できる力を養成する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	【第1回】国語の教育経験を相対化する 小学校時代の自らの「国語教育」経験を相対化するため、学習活動を回想しつつ疑問に思っていたことについて、その目的や意義について周囲と対話しながら検証する視点を持てるようにする。 (目標(1)-1), 2) 4), (2)-1), 3))					

	【第2回】国語科教育の意義（テキストⅠ） 「国語教育」と「国語科教育」の違いを認識し、どのような資質・能力を身につけたらよいかを知識のみならず、自らの体験から主体的に理解できるようにする。（目標(1)-1), 4), (2)-1)) 【第3回】国語科教育の構造 1 目標・内容（テキストⅡ 1・2） 国語科教育の目標・学力・内容について、学習指導要領に即して構造的に理解し、その知識を活用することで実践への糸口があることを認識する。（目標(1)-1), 2), (2)-1), 3)) 【第4回】国語教育の構造 2 方法・評価（テキストⅡ 3・4） 言語・言語活動・言語生活の構造を把握し、「主体的・対話的な深い学び」を実現するにはどうしたらよいかを実践への視点を持ちながら身につける。（目標(1)-1) 2), 4) (2)-1), 3)) 【第5回】国語科授業の計画 1（テキストⅢ 1・2） 学習者の実態把握の視点を持ち、年間学習計画や単元指導計画を立てることができるようにする。この双方から学びを実感できる授業を構想できることを目指す。（目標(1)-1), 2), (2)-1), 3)) 【第6回】国語科授業の計画 2（テキストⅢ 3） 国語科学習指導案の基本的な作成方法について、学習指導要領にどのように準拠したらよいかを知識のみならず、自らが作成する立場で学ぶ。（目標(1)-1) 2) 3), (2)-1), 3) 4)) 【第7回】国語科授業の計画 3（テキストⅢ 4・5） 教材研究や教材開発の視点を学び、実際に授業をするにあたりどのような準備をしたらよいかを実践的に把握できるようにする。（目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4)) 【第8回】国語科授業の計画 4（テキストⅢ 6・7） 国語科の学習過程と言語活動について学び、授業を活性化する方法としてどのような視点を持てばよいかを理解する。（目標(1)-1) 2), 3), 4), (2)-1), 2) 3), 4)) 【第9回】国語科授業づくりの実際 1—指導案作成（テキストⅣ 1-1・2） 知識及び技能を育てる授業づくりにおいて、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」に関する事項について理解を深め、授業実践に応用できるようにする。（目標(1)-2), 4), (2)-1), 3), 4)) 【第10回】国語科授業づくりの実際 2—指導案作成（テキストⅣ 3） 知識及び技能を育てる授業づくりにおいて、「我が国の言語文化」に関する事項について理解を深め、授業実践に応用できるようにする。（目標(1)-2), 4), (2)-1), 3), 4)) 【第11回】国語科授業づくりの実際 3—指導案作成（テキストⅣ 2-1） 思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりのうち、「話すこと 聞くこと」について実際の授業過程を考案する。（目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4)) 【第12回】模擬授業演習（1）（A・Bグループ） 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける（目標(1)-3), (2)-2), 3)) 【第13回】模擬授業演習（2）（C・Dグループ） 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける（目標(1)-3), (2)-2), 3)) 【第14回】模擬授業演習（3）（E・Fグループ） 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける（目標(1)-3), (2)-2), 3)) 【第15回】国語科授業の事後研究 第12回から第14回までの模擬授業について、各班が振り返りを発表し相互に授業改善に向けた対話ができるようにする。（目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4)) 【試験・第16回】詩の群読活動実践を行い対話から得られた発見をシートに書き込み、実践的な発想をする力を見る試験を実施する。
学 生 に 対 す る 評 価	授業中の活動・レビュー・模擬授業50%、指導案&期末試験50%で評価を行う。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・授業において口頭で行う。

	・答案例を授業中に評価する。
時間外の学習について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前事後にテキストを参照し講義内容について自分なりに整理し直し、授業の見通しと自らが活用できるようにしておくこと。
テキスト	『新たな時代の学びを創る 小学校 国語科教育研究』東洋館出版社 2019
参考書・ 参考資料等	『小学校学習指導要領(最新版)解説 国語編』
担当者からの メッセージ	楽しく国語の授業づくりができるようになりますように。
オフィスアワー	授業前後の時間。